

# 日本における LM 児童生徒のための問題提起型教育の開発に向けて

王力・清司穂高・山崎亮介・佐藤大紀（大東文化大学大学院）\*

## はじめに

多文化時代において、日本の公教育が直面している諸問題について、見直しがせまられている。それら日本の公立学校が抱える諸問題のひとつとして、LM（言語的少数派）児童生徒に関することがあげられる。私たちは日本社会における LM 児童生徒の社会的位置づけを明らかにするために、群馬県伊勢崎市にある ICS（International Community School：多言語教育研究所）にかよう子どもたちへのインタビューや JICA 横浜への訪問、さらには心理学者との論議などをおして理解を深めてきた。ICS に通う児童生徒の親は、ペルーやブラジルから出稼ぎにきて派遣社員として日本の工場などで働いている。母語や家庭で話す言語は、スペイン語かポルトガル語であり、皆、日本の公立学校を中退し、ICS の「虹の架け橋教室」というプログラムで学んでいる。

私たちはこれまで ICS において、実際に LM 児童生徒が直面している問題は何かを明確にするために、1年間かけて調査を実施してきた。その最終段階として ICS において授業をおこなうことにした。この実践は、ブラジルの教育学者であり識字教育の第一人者である Paulo Freire の理論にもとづいている。LM 児童生徒が抱える諸問題にたいして、“friendship”, “bullying”, “bad teachers”, “work”の4つの視点から授業を構想した。さらには Dawn Belkin Martinez の *Therapy for Liberation: The Paulo Freire Methodology* における段階的な Freire 的实践方法も参考にした。

本論では、フレイレ的実践すなわち「児童生徒による問題と現状の認識、問題へとりくむための諸要素（個人的、文化的、組織的）の分析、そして問題と現状を変えていくための行動」をはぐくむ実践が、ICS の児童生徒とともにどのようになされたか、授業計画とそのプロセスを検討する。あわせて Freire の方法論にもとづく絵・「コード」も所収した。

## 授業案（1）：日本における人間関係の構築

授業者：WANG LI

目 標：多くの LM 児童生徒は、日本人の友だちがなかなかできず、友だちが少ないことに悩んでいる。この授業では、文化によって友だちができるプロセスが異なることを児童生徒が知り、孤独感を軽減させる。

対象児童生徒：小学校5年から高校までの LM 児童生徒

## 指導手順

1. 自己紹介
2. 語彙学習：英語による感情表現を勉強する。絵を用いて視覚化して、日常生活において使われる表現を知る。

「南アメリカから来た子どもが日本人の子どもから拒絶された際に、どのような感情を抱くか」という場面を想定して以下の表現を導入した。

気にしない / なぜ拒絶されるのか分からない / 落ち込む / 悲しむ / 傷つく / 怒る / 憎む / その他



絵コード

## 3. 絵の分析

質問：

この子どもたちはどこから来たのでしょうか。

その子どもたちは何をしていますか。

その子どもたちは何を感じていますか。

絵を見てどのようなことが読みとれますか。

絵の描写のようなことが起こる原因はどこにあるのでしょうか。

以下のように、児童生徒からだされたことをまとめて、ホワイトボードに書きだしていった。

「南アメリカから来た男子は日本にきて、日本人の友だちができることを願った。しかし、拒絶されてしまい、怒りや悲しみ、困惑などさまざまな感情を抱いた・・・」

## 4. 絵の状況を論じる

児童生徒の経験に関する質問

あなたの家族が日本に来た理由は何ですか。

移住前に母国で抱いていた自分の夢や希望がありますか（例：日本の学校に通う）。

日本人の友だちができた経験がありますか。

もしもその経験がある場合には、どのように連絡をとりあっていますか。

#### 絵の描写に関する質問

絵の描写のようなことを経験したことはありますか。

もしもあなたが日本人の子どもに拒絶されたとしたら、どのような感情を抱くと思いますか(複数の選択可)。

気にしない / なぜ拒絶されるのかわからない/落ち込む/悲しむ/傷つく/怒る/憎む/  
その他の感情

もし拒絶されたら、どのように対処しますか。

他の友人を探して遊ぶ/拒絶した友人との対話を通して、その原因を探る/もうその人とは関わらない/その他の対処法/

日本の子どもたちが日本人以外の人々を拒絶する時、どのような理由が考えられますか。

言語理解やコミュニケーションの問題 /文化の違いに原因がある/個々人の性格に原因がある/その他の理由

#### 5. 少人数グループでのロールプレイ

配役：(すべての児童生徒に一度は何らかの役割が与えられるようにする)

A: 南アメリカから移住してきた子ども B・C: 日本人の子どもたち

- a. 放課後、B と C がサッカーをして遊んでいる。
- b. そこに A が登場し、一緒に遊んでもよいかと尋ねる。
- c. B と C は、見知らぬ A と一緒にサッカーをすることを拒む。
- d. A はこの「拒絶された」という経験を考察することにする。

#### 物語：文化の違いについて考える

ここでは2つの物語を紹介する。1つ目は、日本にいるブラジル人の少年の話。2つ目は日本人の少年たちの話である。2つの物語を読んだ後、考えをだしあう。

#### **Santos' Story**

Santos は毎週日曜日の午後、公園で知りあった何人かの少年らとサッカーをして遊ぶため、よくその公園へいきます。ある時、公園にはDiego という名前の子がいました。Diego と Santos は、2人ともサッカーをするのが好きでした。公園でサッカーをして、コンビニで飲み物を買って、2人は公園で座ってよく話しをしていました。携帯電話の番号を交換し、時々メールを送ったりもしていました。それからきまって日曜日になると会っていましたが、ある日、Santos が公園にいったらそこにはDiego の姿はあ

りませんでした。その次の週もいませんでした。Santos は Diego の携帯に電話をしましたが、つながりません。Santos は他の子たちにも聞いてみましたが、誰一人 Diego の行方を知る人はいませんでした。それから 6 ヶ月、Santos は Diego の両親が離婚していたことと、突然 Diego が母親と一緒にブラジルへ行ってしまったということを知りました。Santos は悲しみましたが、Santos にはまだ公園には数多くの友人がいますし、公園にはいつもあたらしい子がやってきます。

#### 鈴木君と太郎君のお話

鈴木君と太郎君は小学校からの友人です。近くに住んでいるので週末になるとよくたがいの家へ遊びにいきます。また、同じ部活に入っているので放課後にはよく一緒に練習もしていました。高校生になってもこのような関係は続いていましたが、鈴木君が引っ越してしまいました。鈴木君と別れる時に、太郎君は鈴木君にプレゼントをしました。その後互いに電話やメールで連絡をとりあっていますし、時々食事をするために会ってもいます。

以下の質問事項を通して、自分にとっての「親友」について考える。

どのように知りあったか。

2人で一緒に遊ぶ時、どのようなことをしますか。

その親友とはどのように連絡をとりあっていますか。それはどのくらいの頻度ですか。

その親友とこの先、将来もずっと連絡をとりあうつもりでいますか。

児童生徒の経験にもとづいて、日本人の友人をつくるためにはどうしたらよいか、どのような方法がよりよい手段であるかなどを考える。さらには、自分から日本人の友人をつくるためにはどうしたらよいか、もしも友人ができたらどのようにその関係を維持していくか、そのためには何が必要かなども考える。それらの考えを画用紙に描いて表現する。

### 授業案（2）：学校のいじめ問題

授業者：清司 穂高

**目的：**多くの在日生徒は公立学校でいじめられた経験があり、それが原因で学校にいかなくなってしまう場合がある。この授業では在日の生徒がいじめられることがなくなるように在日の生徒やクラスメートにいじめについて、またいじめが起こった際に助けられるようにするなど、いじめの授業をとおしていじめの解決策について考える。

**対象：**小学5年生程度

**指導手順：**

1. 自己紹介
2. 語彙学習：いじめに関する英単語を学ぶ。

絵と単語を交互に合わせるアクティビティや単語と絵柄を合わせる神経衰弱ゲームなど

をとおして楽しみながら学ぶ。

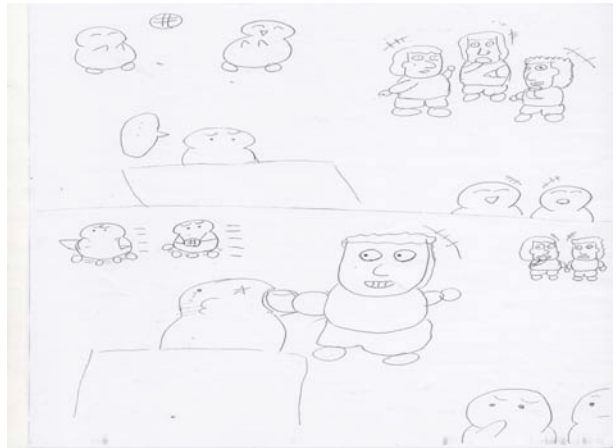
### 3. 絵の分析

質問：

いじめの絵を見せて、いじめについて発問し、分析する。

#### a 発問例（上の部分）

1人で机に座っているのは誰ですか。  
その子は何を考えているのでしょうか。  
3人の男の子たちは何を話していますか。  
他の2人組のグループは何をしていますか。  
なぜ男の子は1人で机に座っているのでしょうか。



#### b 発問例（下の部分）

なぜいじめっ子は男の子を殴っているのでしょうか。  
なぜ他の子たちのなかには逃げている子がいるのでしょうか。  
なぜ3人の子はいじめをしたり見たりして笑っているのでしょうか。  
いじめられっ子はどんな気持ちでしょう。  
いじめを見ている子はなぜなにもしないのでしょうか。  
この絵の中で誰がいじめられっ子を助けたのでしょうか。  
いじめを見ているだけの子にも責任はないのでしょうか。

#### c 児童の考えをまとめて黒板に書き出す。

例えば、上の絵柄からは、「1人で座っているのは在日の子である。1人で座っているのを見て笑っているいじめっ子がいてもまわりの子たちは気にしないで楽しそうに遊んでいる。1人だけであるその子はみじめな思いをしている。いじめられっ子や見ているだけの子にもいじめの責任がある」というような説明が想定できる。

### 4. いじめの絵について話しあう。(直接自分の体験を聞いてみる)

もし友だちがいじめられているのを見たらどうしますか。  
もし誰かに殴られたら、あなたはどうしますか。  
いじめをみた経験はありますか。その際、どう感じましたか。あなたは何をしましたか。  
いじめを見ているだけの人は何をすべきだと思いますか。  
いじめられっ子はいじめっ子や見ているだけの子にどんな感情をもつと思いますか。  
いじめっ子がいじめている時に先生がクラスに入ってきたら、いじめっ子は何をすると思いますか。  
殴る以外にどんないじめがあると思いますか。  
どんないじめが一番ひどいと思いますか。その理由は。

なぜいじめは学校でなくなるのでしょうか。

5. ロールプレイ。(4人)

役割：いじめられっ子(1人)、いじめっ子(1人)、見てるだけ(2人)

ルール：本当に悪口を言ったり、実際に殴ったりしない。

ロールプレイは2回おこなう。

1回目は見てるだけの子は見てるだけにする。

2回目は見てるだけの子が助けに入る。

いじめの演技について話しあう。いじめられっ子は1回目と比べて2回目ではどんな気持ちになったか。見てるだけの子はどんな気持ちになったか。いじめっ子の気持ちは、助けてもらった方が気持ちは楽になるのか。

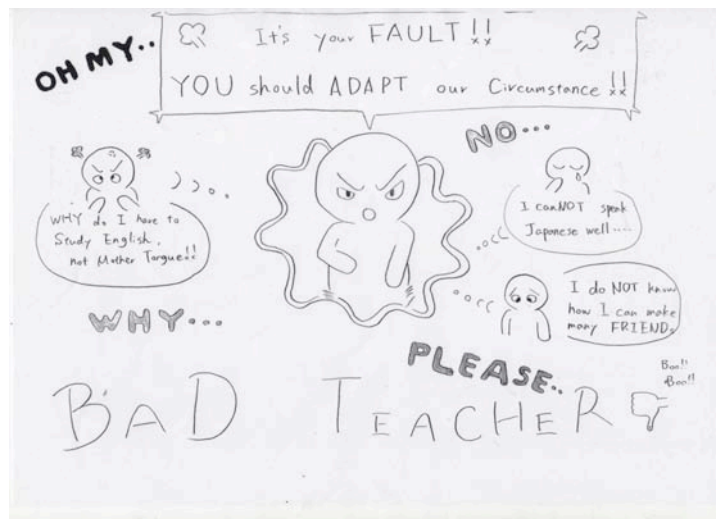
6. いじめをなくすためのポスターや標語をつくる。

小さい紙に児童それぞれのいじめにたいする意見や考え」を書く。教師が小さい紙を集めて大きい紙にはりつけて1枚のポスターにしてそれを教室に掲示する。また、ポスターに書いてあることについて、教師がまとめてコメントをする。

**授業案(3)：なぜ、外国人の生徒にたいして「悪い」教師となってしまう日本人教師がいるのだろうか。**

授業者：山崎 亮介

**目的：**日本の公立学校に通う外国人の子どもたちのほとんどは、学校や学級の中での自分たちの立ち位置に悩まされることがある。その原因として、例えば日本語という語学に関する障壁が挙げられる。しかし日本人教師の中には、日本語を習得するために要する時間と費やす努力がいかに大変なものかということに無頓着な人々が少なくない。さらには、母語の重要性に関する認識も低い。ついにはそれらの事柄を教育現場での問題とは思っておらず、それは生徒自身で解決するか、もしくは家庭で責任を負うべきとするのである。よって本講義の目的とは、外国人の子どもたちが日本の公立学校でどのような存在であるかを、彼ら自身が改めて考え直すことにある。そして日本の教師がどうあるべきだと考えるか、その役割と責任についても、子どもたちの考えを明らかにする。



絵コード

**対象生徒：**外国人生徒、小学5年生から高校生まで。

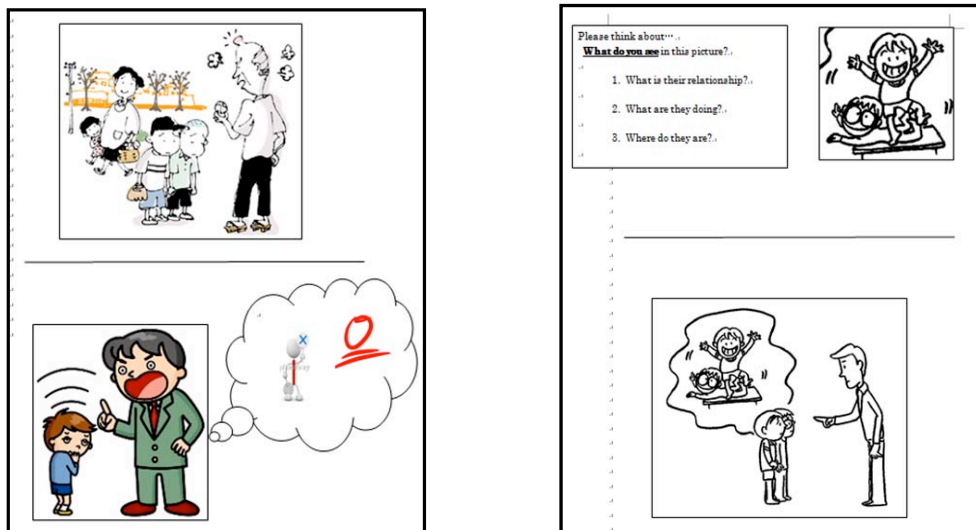
**授業手順：**

### 1. 自己紹介

### 2. 絵コードに関して自由に話しあい、各々の意見を発表する。

机の上でふざけあう子どもたちの絵を見せ、後に教師に怒られる子どもたちが描写される絵を見せ、気のついたことを問う質問を提示し、考えを出しあうようにする。次に、悪いことをして大人に叱られる子どもの絵を提示する。ここで、生徒は絵の子どもたちが叱られている理由について考察し、自分たちに責任があることを知る。

そして、生徒に以下の内容が描写されている絵を見せる。



「とても真面目で悪いこともしたことがないが、日本語ができないことからテストで0点をとってしまい、それで担任教師に叱られている」というものである。日本語の発話能力にはまったく問題がないが、書くことや、また書き言葉の理解が困難なことから、社会と国語が苦手である。さらに母語でそれらの教科を勉強したこともないということも困難な理由となっている。つまりこの生徒は、語学的な問題のみならず、内容理解についても困難さをもつのである。

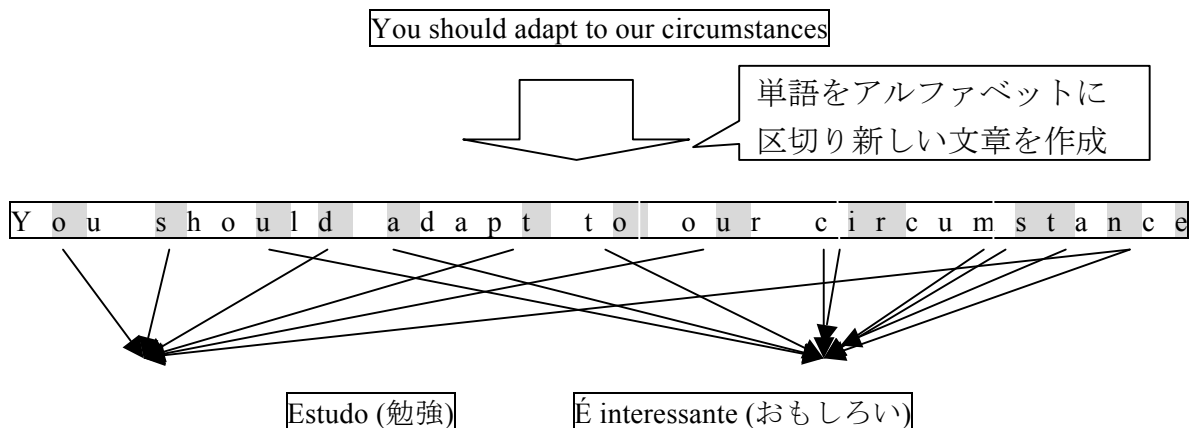
ここでは、例示された描写において悪いのは教師と生徒のどちらなのかを考えさせるのがねらいであり、その責任は教師が負うものであるということがわかるもの、とされる。

### 3. 少人数グループ (3~4名) で話しあい、意見交換をする。その際、人権に関するより深い内容の事項をとりあげる。

- 日本の公立学校に適應できない子どもたちは、本当に「悪い」のだろうか。そうである/そうでないならば、その理由は何であろうか。
- なぜ、適應する子どもたちは「よい」生徒なのだろうか。
- 日本の公立学校において、母語よりも日本語や英語だけを勉強することが、自分のニ

- ーズを満たしてくれることなのか。
- d. 教師の決定はつねに子どもたちにとって本当にただしいものだと言いきれるか。そもそも「ただしい」とは、どのようなことなのだろうか。
- e. 自分が外国人であるという理由で、もしくはその日本語能力がいたらないことが原因で、今までに教師から指されたことはあるか。
4. 日本の公立学校は、外国人の子どもたちにたいする配慮が欠けていることをどのように改善できるか考える。
- まず現行の母語を支援する授業を開講する。母語による図書や辞書を閲覧できるようにしているなどの措置について、その場面を写真を用いて提示する。
5. 以下の2つの項目に関して、少人数グループで話しあいをする。
- ・日本の公立学校において、どのように英語だけでなく他の言語を第二外国語としてとりあげることが可能か。
  - ・いわゆる「悪い」教師の考え方を变えるために、学校はどのような対策ができるか。
6. 意見の共有：グループで話しあったことを報告する発表者を決める。意見を共有する際、すべての生徒が意見を述べるようにする。
7. ポスターづくり：日本の公立学校、ひいては日本の社会にたいする意見をあらわすポスターをつくる。これは自分たちの「声」を伝えるものであり、コードの絵や、他の絵なども参考に提示する。ポスターができあがったら、発表した他のグループの作品について自由に意見を出しあうようにうながす。
8. 語彙学習：英語で書かれた文章の文字を使用して、母語から構成された英語でない新しい文章を書く。

パウロ・フレイレの識字教育の実践への試み  
英語からポルトガル語への言葉遊び





## 授業案（４）：将来の仕事について

授業者：佐藤大機

目的：仕事とは何かということを学ぶことと、児童生徒たちがその職業にたいして夢をもつことを目的とする。

### 指導手順：

#### 1. 仕事に関する語彙を学ぶ。

教師や医者など、職業をあらわすピクチャーカードを用意し、英語でそれらの仕事をあらわす単語を学ぶ。カードを用いて仕事の名前をあてるクイズをおこなう。その際、単語を発音させ、定着をはかる。

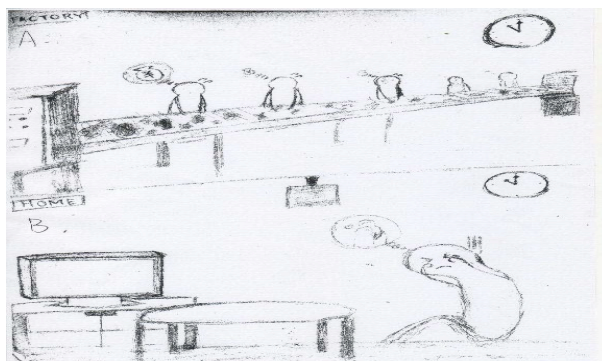
#### 2. さまざまな仕事の一か月の平均給料を当てるクイズをおこなう

1. で示された仕事の平均給料はどうか掲示し、線で結ぶようにする。職業と賃金のかかわりや仕事間での給料の差を知る。

#### 3. あらかじめ用意した絵を見せ、質問に Yes か No で答えさせる。

##### 質問

- a. 絵に描かれている人たちは工場で働いている (yes)
- b. お金を得るために働いている (yes)
- c. 夜9時になっても働いている (no)
- d. 家のなかで座っている子どもは楽しそう (no)
- e. その子は親を待っている (yes)



絵を見せることで想像力をかきたて、それにともない質問をすることで絵をあわせて、ただしいか、ただしくないかを判断する力をやしなう。

#### 4. 将来なりたい職業について

ひととおり仕事に関することについて意見をだしあった後で、将来自分は何になりたいかをだしあい、それらを実際に書きだす。あらかじめ用意した用紙（以下にサンプル）になりたい職業と、そのために必要な資格や、それを習得するために必要な期間などを記入し、発表する。ただ単に「何」を聞くのではなく、「なぜ」という質問によって考える力をやしない、さらに自分の将来なりたい職業を聞くことで、「社会」に関心を持てるようにすることを目的とする。

## 結論

今回 ICS で実践した授業をとおして、Freire の提示する概念が LM 児童生徒へも通用するものであることが確認された。さらに Martinez が定義した Freire のアプローチを実践するための 3 つのステップを段階的に達成していくことが、子どもたちみずからが問題を提起し、解決していくための重要なプロセスとなることがわかった。

このプロセスを計画的に、かつ慎重に達成していくことの重要性について、あらためて強調しておきたい。それは Martinez が提示する“to see, to analyze, to act” というプロセスを実践していくことが、LM 児童生徒の抱える問題を「分析」し、問題解決に向けて「行動」することはもちろん重要であるが、最も重要で不可欠な過程は、当事者がみずからおかれている状況と直面する問題がどのようなものであるかを自分たち自身で「見る」ということに他ならないからである。そしてこの段階は、かならず行為者と対象者との間でおこなわれるコミュニケーションをとおして構築されなければならない。

言い換えれば、対象者である ICS の子どもたちを「知る」ことなしに、当事者の人間性を尊重した実践がなされることはありえないのである。そうでなければ、そのような実践は単なる価値観の押しつけでしかない。もしも、そうしたコミュニケーションを軽視し、あらゆる文化圏の人びとに通用するという前提で、実践がなされたとすれば、それは自分たちのために都合のよいものでしかなく、対象者はいつまでも日本社会において「日本人とは違う人びと」として差別化されることになる。ここでの「違う人びと」という意味は、自分たち日本人に優位性を置き、「相手を助ける」という言葉に隠蔽された弱者にたいする劣等性をつねに強い続けることにほかならず、自分たちの社会・文化に適應できない人びとを疎外しているのである。

そうではなく、ICS の子どもたちがコミュニケーションをとおして、当事者である自分自身が問題を解決する主体になることこそが重要であり、そのような実践こそがまさしく Freire 的な教育へのアプローチになると考える。例えば今回の ICS における授業の実践において、講義とアクティビティでは児童生徒の興味・関心や集中力がまるで異なるという重要な指摘がある。それに関して「アクティビティの方が身体を動かせるので、子どもたちは楽しんでいる」というような議論に終始してはならない。ここから明らかになることは、子どもたちの「声」を聞くことの重要性である。LM 児童生徒は講義ではうまくいかなのは、内容が難しいということや LM 児童生徒は日本語では集中力できない、というようなことではない。教師から児童生徒にたいして一方的に説明するという行為である講義がもつ性質は、児童生徒の声を聞きだすものでは決してない。さらには話し手の価値観や知識にもづいてなされる一方通行の話しは、聞き手の文化や価値観を考慮しなくとも成立するのである。

これにたいして、Freire がとくに重要視するのがコミュニケーションであり、それは対象との対話をとおしてなされるのである。対話により当事者の言葉がありのままにだされ

るのである。これは LM 児童生徒自身が主体となり、自分の頭で抱えている問題が何なのかを考察するために、きわめて生産的な問題解決方法となる。

今回の実践においても、ICS の LM 児童生徒は「日本の公立学校に変わって欲しいところは何か」というテーマでポスター作成した。そのことにより「第二外国語の教科では、英語だけでなくポルトガル語も教えてほしい」という声がだされたのである。このポスターからは、日本社会への変革を求める意識が読みとれるだけでなく、公立学校でポルトガル語を教えることで、同世代の日本人がポルトガル語を学んでくれれば日本人の友人を得る機会が増えるということの含意がある。言葉の障壁により、なかなか日本人の友人ができないという経験にあるということも示している。このように、相手の言葉を尊重し、互いを知ろうとするアプローチは重要性である。

さらに、対話というコミュニケーションは LM 児童生徒と向きあう教師にとっても有益である。自分とはなじみのない異なった文化をあらたに知ろうとするのだから、当事者の言葉が表出されるのを待ち、知識や価値観の押しつけを避けなければならないのは当然である。当事者のみずから抱える問題意識が紡ぎだされ、それが分析されることにより、問題が提起されることにより、教師は当事者のニーズにそくした授業を展開していくことが可能であると考えられる。

あらためて ICS での実践をふりかえると、「失敗した」と思われたのは、いずれも講義型におちいった場合であった。何よりも「失敗した」と感じてしまう自分たちこそが、無意識のうちに、自分たちの思うように児童生徒をコントロールできれば成功であると思っていることを自覚することとなった。一方で ICS の子どもたちに既存の文化をもちこんだところで機能しないという経験が、多様な教育のあり方とその価値を発見であった。LM 児童生徒にたいして Freire 的教育実践は有益であり、日本社会のいたる所でおこなわれている知識注入型の教育が唯一のただし教育ではなく、児童生徒とともに作りあげていく問題解決型教育に多大な教育的価値があることが認められるといえるのである。

注：

\*本論はミックメーヒル カイラン（大東文化大学）による編集による。

## 参考文献

Freire, P. (2000). *Pedagogy of the Oppressed*. New York, London: Continuum.

Martinez, D.B. "Therapy for liberation: The Paulo Freire methodology."

Unpublished paper. Retrieved January 17, 2012, from

<http://www.liberationhealth.org/documents/freiresummarysimmons.pdf>

# **Developing a Problem-Posing Approach For Language Minority Students in Japan**

Ryosuke Yamazaki, Hodaka Seiji, Daiki Sato, Wang Li\*

Daito Bunka University English Literature Graduate School

## **Introduction**

In this multicultural era, Japanese public schools have to face some problems they have avoided so far, especially about how to integrate language minority (LM) students into the classroom and ensure their equal academic opportunities. In our Multicultural Education Course at Daito Bunka University, we conducted action research on this theme, using as a focus group the students of ICS (International Community School). The approximately twenty students, aged six to seventeen, are of Japanese descent i.e. “Nikkeijin”, but are language minorities in Japan, as their first language and home language is Spanish or Portuguese. Their parents came from Peru or Brazil to work as “haken shain” (temporary workers) in Japanese factories. All of them had dropped out of Japanese public schools and were attending the Rainbow Bridge Program of ICS, in the Multilingual Education Research Institution NPO, in Isesaki, Gumma Prefecture.

Our action research was informed by the theories of Paulo Freire, Brazilian educator and leader of literacy education, using the actual behavior and experience of students as the subject of critical enquiry as well as the means for solving real-life problems (Freire, 2000). As Martinez summarizes this approach, the first step is “to see the problem or situation lived by students.” We attempted to do this through readings, observations and interviews with students at ICS, a visit to the JICA Museum of Japanese Emigration in Yokohama, and an interview with a Brazilian psychologist, Elaine Hara, who was working with the students at ICS and with the wider Nikkeijin community in Gunma. On the basis of this initial research, we identified a general problem many LM students face: low attendance, dropping out of Japanese public schools, and the consequent difficulty of obtaining a junior high school or high school diploma in Japan, contributing to a replication of their parents’ temporary worker status in the second and third generation in Japan.

Following Freire’s second step, we further refined our analysis to identify some preliminary factors (personal, cultural, institutional) that contribute to these problems, and we represented these factors as visual codes or in this case, drawings to use in English classes with the ICS students. These factors were 1. the difficulty of making Japanese

friends; 2. being bullied because of being a minority; 3. suffering from having unprepared or ignorant teachers; and 4. lack of parental guidance or knowledge regarding schoolwork, the Japanese school system, and strategies for upward mobility in Japan.

In the next section, we give the actual lesson plans we created to help students generate their own codes, analyses, consciousness and in Freire's third step, goals for acting to change their problems or situation, at the same time teaching English as a foreign language. Finally, in our conclusion, we describe the reaction of the students when we actually taught these lessons, and reflect on how our approach should be augmented or adapted. It is hoped that our lesson plans can provide concrete examples to language teachers of how they can develop an approach that will include and value the experiences, identities and problems of the minority students in their classes, and in the process raise the consciousness of minority and Japanese majority students alike.

## **LESSON PLANS**

### **Lesson 1: Friendship in Japan**

**Teacher:** Li Wang

#### **LESSON OBJECTIVE:**

Many foreign students complain that they cannot make Japanese friends, or have few Japanese friends. In this lesson, the teacher tries to help the students understand cultural differences that lead to different ways of making friends, and encourage them to get used to Japanese culture, thus also easing their psychological sense of isolation.

#### **TARGET STUDENTS:**

Foreign and Japanese students, from 5th grade to high school

#### **STEPS IN LESSON**

1. Everyone introduce themselves.
2. Vocabulary learning activity: Expressing emotions in English. Students learn the words they might need to describe the feelings and actions in the picture.

For example, "When the boy from South America is rejected, he feels sad."

3. Analyze the picture.

Ask students:

Where are the children from?

What are they doing?

How do they feel now?

What do you feel about what is happening in the picture?

Why do you think is it happening?

Summarize their ideas about the picture on the whiteboard. For example, “The boy from South America is immigrating to Japan, with the hope of becoming friends with a Japanese boy. But he was rejected and pushed away. He might feel angry, sad, and confused.”



**Picture/code:**

4. Discuss the situation in the picture.

Ask the students about their experience:

Why did your family come to Japan?

Do you remember your hopes or expectations about going to Japan, or going to a Japanese school?

Have you ever made a Japanese friend?

If so, do you still keep in touch with each other?

Have you ever experienced something similar to the picture?

How do you feel when you are rejected by someone? (multiple choice)

I don't care

I wonder why I am rejected

Depressed

Sad

Hurt

Angry

Filled with hate

Others (-----)

How would you deal with someone rejecting your friendship?

I'd find other students to play with

I'd try to find out the reason, and try to talk to the person alone

I'd never talk to them again

Others:

Why do you think Japanese students might reject foreign students?

Language or communication problems

Culture differences

Individual character (depends on the person)

Others:

5. Role-play a situation in groups of three. Perform for the class.

A: the new student from South America; B & C: the Japanese students

a: B and C are playing soccer after class.

b: A comes and asks to join them.

c: But A is rejected by them.

d: A tries a strategy for dealing with this rejection.

Stories for thinking about cultural differences

Listen to and read two stories about a Japanese boy and a Brazilian boy and their friends.

Santos and Diego

Santos used to go to the park near his house every Sunday afternoon to play soccer with some other boys who met there. One time, there was a new boy named Diego. He and Santos had a lot of fun playing together, and afterwards, they went to the convenience store to buy something to drink. They sat in the park together and talked. They exchanged cell phone numbers and sometimes they sent each other mail. They usually met in the park every Sunday. One day, Santos went to the park and Diego wasn't there. He wasn't there the next week either. Santos tried to call Diego but his cell phone was disconnected. Santos asked some other boys about Diego, but no one knew what happened. About six months later, Santos learned that Diego's parents had divorced, and Diego had gone back to Brazil suddenly with his mother. Santos was sad, but he still had a lot of friends at the park, and new boys were always showing up.

Suzuki-ken and Taro-kun

Suzuki-kun and Taro-kun were classmates from primary school. Living nearby each other, they often went to each other's home in the weekends. Having joined in the same club, they often practiced together after school. They kept this relationship until high school when Suzuki-ken moved away. Taro-kun gave Suzuki-kun a present when he left. They kept in touch by e-mail and telephone. Even now, when they are adults, sometimes they still get together to meet and have a drink.

How are the boys' styles of making and keeping friends different?

Do you agree that Japanese and South American culture is different this way? Why or why not?

6. Draw a picture of your best friend of any nationality and write or talk about the following questions

How do you meet your best friend

What do you do together?

How do you keep in touch? How often?

Will you keep in touch in the future?



Li Wang teaching

Based on the experiences we shared today, what is a good way to make more Japanese friends? Let's each make one resolution for the New Year, about how you will try to make a Japanese friend or keep in touch with a Japanese friend. Write your resolution on a card and display it in the class.

## **Lesson Two: School Bullying or “Ijime”**

**Teacher:** Hodaka Seiji

**LESSON OBJECTIVE:** Many foreign students have experienced bullying in Japanese public schools, and in some cases they even stop going to school because of this. In this lesson, the teacher tries to help both foreign and Japanese students realize that bullying makes everyone miserable, so everyone should help to stop it.



**TARGET STUDENTS:** Foreign and Japanese students, 5th grade and up.

**STEPS IN LESSON**

1. Everyone introduce themselves.

2. Vocabulary learning activity: Talking about bullying in English.

Play a “Concentration” vocabulary card game to learn the key words in today’s lesson.  
Turn over all the cards. Turn over two cards at a time. Try to match the Japanese word cards with the English word cards.

Sample Words for Cards: bully (verb and noun), victim, hit, laugh, whisper, run away, bystander

3. Analyse the code (picture).

Ask students about the picture:

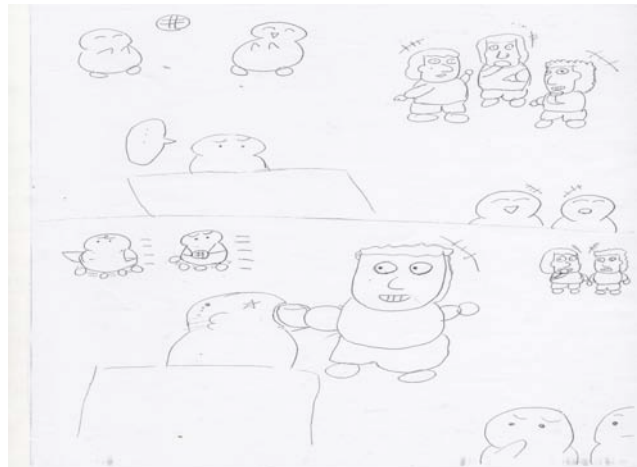
Who is the boy sitting at the desk?

What is he thinking about?

What are the three boys in a group talking about?

What are the boys in pairs doing?

Why is the boy at the desk alone?



Ask students about the bottom picture:

Why is the bully hitting the boy at the desk (the victim)?

Why do two other boys run away?

Why do three boys laugh when the bully hits the victim?

How does the boy at the desk feel when the other boy hits him?

Why don’t the bystanders do anything when they see the boy being hit?

Does anyone in this picture support the victim?

Are the bystanders to blame for the bullying?

Summarize their ideas about the picture on the whiteboard. For example, “The boy from the Philippines is being hit by another boy. Some classmates see it, but they just laugh and don’t help him. He feels alone and miserable. The bully and also the bystanders are to blame for the bullying.”

4. Discuss the situation in the pictures. Ask the students about their experience.

What would you do if the victim were your friend?

If someone hit you, what would you do?

Have you ever witnessed bullying? How did you feel? What did you do?

What do you think the bystanders should do in this picture?

How do you think the victim feels towards the bully? Towards the bystanders?

If the class teacher arrives in this picture, what should he or she do?

What are the different kinds of bullying?

What kind of bullying do you think is the worst? Why?

Why aren't Japanese schools stricter about bullying?

5. Role-play a situation in groups of four or so.

Roles: a bully, a victim, and some bystanders.

Rules: Don't use really bad words, don't actually hit anyone.

Role-play the situation two times.

The first time, the bystanders just watch.

The second time, the bystanders intervene.

Discuss the two role-plays: How does the victim feel the second time compared to the first time? How do the bystanders feel? The bully feel? Is it better to intervene?

6. Make a poster with slogans.

Each student thinks of a slogan about bullying, and writes it on a piece of paper.

The teacher gathers the slogans and glues them to a big poster and displays it.

The teacher summarizes and comments on the poster.

### **Lesson Three: Why are some Japanese teachers “bad” for some foreign students?**

#### **How can they change?**

**Teacher:** Ryosuke Yamazaki

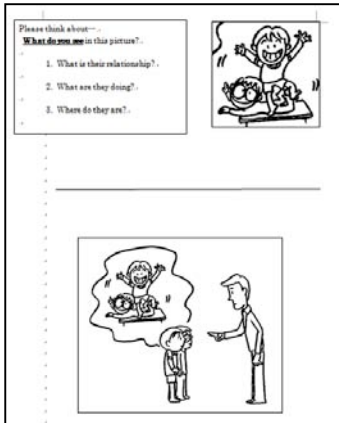
**LESSON OBJECTIVE:** Almost all foreign students are confused about their position in Japanese public school because of, for instance, Japanese language barriers. However, some Japanese teachers lack awareness of the time and effort required for language acquisition, and the importance of the mother tongue, and do not consider this their problem but the students' or parents' responsibility. Therefore, this lesson aims to make students reconsider their position in Japanese public schools and the role and responsibility of the teachers.

**TARGET STUDENTS:** Foreign students, from 5th grade to high school

#### **STEPS IN LESSON**

1. Everyone introduce themselves.

2. Discuss their answers to these questions in each small group. (3~4 people)



Show the picture which describes children playing on top of a desk, and then, the part of the picture where they are scolded by their teacher. Next, they think about the questions about “What do you see in this picture?” (ex. Their relationship, their behaviors, the place where children in)

Show another picture of children who are scolded by an adult because of their bad behavior. (In this case, students see the reason why they are scolded and their responsibilities.)



Finally, students see the picture of a foreign student who is a nice boy and has never done anything bad, but is scolded by his teacher because of his bad score on an exam due to his lack of Japanese. The student can speak Japanese well but still has trouble with written and academic Japanese, especially regarding social studies and Kokugo. This is also because the student has never studied those subjects in his mother tongue. He must struggle to learn not only the Japanese but also the content. (In this case, students should focus on whether the student is actually bad or not. The goal is for them to realize that it is the teacher who has a problem, not the student).

3. Using the teacher’s picture (code), evolve some deeper questions related to human rights:

Ask students:

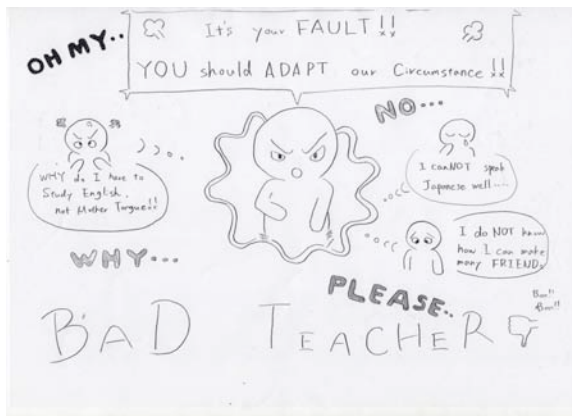
Are students who cannot adapt to Japanese schools really “bad”? Why are they bad?

Why are the others good?

Is just learning English or Japanese, rather than your mother tongue, enough for all your needs? (Society, school and class, and family)

Can a teacher’s rules always be right for students? Are they really right? What is “right”?

Have you ever felt that a teacher picked on you for being a foreigner, or because your Japanese was not perfect?



4. Find ways to solve the problem of the lack of sensitivity to foreign students in Japanese public schools. Suggest some possibilities for improving the conditions in Japanese public schools using pictures. (ex. Create a mother tongue support class, set up a booth with books and dictionaries about their mother tongue.)

5. Discuss these questions in small groups:

How could Japanese public schools use not only English but also other languages?

How can schools persuade bad teachers to change their ideas?

6. Share your ideas- Decide a presenter to report your group's idea.

Every student should comment about other group's idea.

7. Making the Poster in terms of their "voice" for Japanese public school, and the Society in each small group. In this activity, I will use my photo and any other examples to make student draw the posters easily. After finishing their drawing, everybody see other groups' works and then make a comment freely.

8. Vocabulary learning – create new words in your mother tongue, using the letters from an English phrase. Transform an oppressive idea into something positive.

Purpose – An attempt for Freirian literacy education  
A word game from English to Portuguese

You should adapt to our circumstances

Divide alphabets from every vocabulary to each letters

You should adapt to our circumstance

Estudo (勉強)

É interessante (おもしろい)

## Lesson Four: Thinking about the connection between finishing school and getting a better job

**Teacher:** Daiki Sato

**Purpose of the lesson:** To learn about jobs and the qualifications required to obtain them; to have dreams of upward mobility for the future.

1. Everyone introduce themselves.

2. English vocabulary for pre-teaching:

Learn and practice the names of each job in English, looking at the pictures. Then memorize these names by doing a matching game, matching the name card with the picture card. As you play, think about each job. Would you like to do this job? Why or why not?

3. Matching Game about Salaries

You might be surprised to know how different the salaries are between jobs. Guess the salary by drawing a line between the name of the job and the amount earned.

4. Look at the codes (pictures) and imagine the situation of the parents and their son.

Answer the five yes/no questions, based on your imagination.

<questions>

People are working at a factory. (yes)

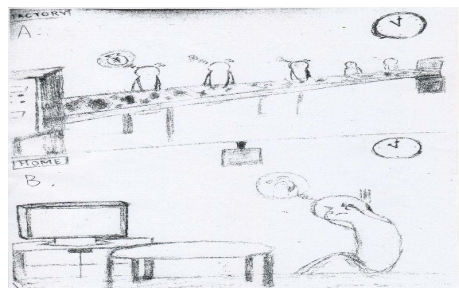
They are working for getting money. (yes)

They are working at 9 p.m. (no)

A boy is sitting in the house feels happy. (no)

He is waiting for his parent(s). (yes)

5. Write down your future dream job and the required qualifications.



In the future, you will probably have to work. It's better to think about it in advance, and make a plan. Please sure your dreams for the future. For example, I want to be a teacher of English in high-school. There are four conditions to be the teacher: I have to graduate from a university; I have to have Japanese nationality; I also have to get a study for an obtain a high school teacher's license; and I must pass the prefectural exam to be a teacher.

### Conclusion

Thanks to this precious chance, we were able to come into close contact with language minority students. As the number of Nikkeijin in Japan is quite large, the education of their generation is quite a big problem for Japanese to deal with. We aimed at finding out the reasons and the ways to resolve it, and then analyzing it.

Based on our investigation, the problems of the children generally come from their family, teachers and friends (or rather their classmates). First, psychologically, the children feel lonely because their parents must work long hours in the factories, so they don't have enough time to pay attention to their children's feelings and learning. Second, in Japanese schools, as foreign students, they are not used to Japanese way of teaching and do not understand the content of the lecture. Even worse is that some teachers ignore the difficulties of the children to understand the classes and force them to obey the same rules as Japanese, without giving any special help, and grade them on the same tests and standards. Most of the children cannot meet the standards of the school in Japanese and quit. Third, for many language minority students, it's difficult to have friendships with Japanese. We learned from interviewing them that most of them had quit school because of being bullied or ignored by classmates.

Thinking over all these problems, at the root of everything is the problem of language and communication. Obviously, the Japanese language is the biggest obstacle for the students to continue their studies. When we tested out our lessons on the students at ICS, our biggest difficulty was also not speaking Portuguese or Spanish. The students levels of comprehension of Japanese and English varied widely, making it difficult to team them as a group. By using English and Japanese together, and translating for each other, somehow they managed to understand us.

We also became aware of the reality that these children are from totally different countries, and they have different cultures and values from us. In our classes, they were very talkative, interactive, and vibrant. From their reactions, we could easily see that some part of our lesson plans was a little dull for them. And different from Japanese students who might quietly listen to the teachers, these children were assertive and refused to fully follow the class discipline. But all of us learned the hard way that they were most interested in the audio visual activities as they concentrated most, and took part in most, in activities such as drawing pictures, word matching and role plays. Also the most successful part of our lessons at ICS were group and pair interactive activities which aroused their interest and participation.

From our experience in ICS, we can make some suggestions for dealing with the language minority students' educational problems. First, the Japanese school should set some new rules for these children to take into consideration their abilities and identities as language minority students. For example, bilingual teachers and support for maintaining and using the mother tongue should be provided, so that they can continue to learn

academic content without falling behind, and can be evaluate fairly in their strongest language. Also, teachers must adjust their teaching methods to them to improve their level. Teachers must create class content based on the realities and concerns of the children, and make all classes interactive and student centered, using physical and visual activities and materials.

Finally, the teacher must enlist the help of the students themselves as peer teachers and interpreters. The great solidarity of the children among themselves should be respected and drawn on by Japanese teachers as a resource, or else the students will turn against the teacher, and refuse to listen, as we sometimes experienced at ICS. Teachers must respect minority children and teach them as a kind of community, letting them help each other, rather than separating children and trying to put them on the spot individually. This finding has great implications for JSL and international classrooms, where minority children are moved out as quickly as possible, and separated from each other in different regular classrooms. We argue instead that even as LM students become proficient in Japanese, they should be allowed to remain part of the time in the JSL classroom and play their essential role as cultural and linguistic mediators for newcomers. In this way, LM students can hone and be properly valued for their bilingual skills and cultural knowledge.

\* Edited by Cheiron McMahill (Daito Bunka University Professor)

#### Reference

- Freire, P. (2000). *Pedagogy of the Oppressed*. New York, London: Continuum.
- Martinez, D.B. "Therapy for liberation: The Paulo Freire methodology." Unpublished paper. Retrieved January 17, 2012, from <http://www.liberationhealth.org/documents/freiresummarysimmons.pdf>